

とらおん



2018年6月16日
NO.567

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会 広報部
〒460-0018 名古屋市中区門前町1番23号 東海教区教務所内
TEL 052-321-0028 FAX 052-332-4097 info@tokai-hongwanji.net

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会 ～連研部～

連研部は、各組での連研の開催・推進を、教区として応援する部会です。その柱として、「連研のための研究会」「連研履修者研修会」「連研スタッフ研修会」（教区独自の事業）を企画、開催しています。

しかし、教区での研修会となると、名古屋別院に講師を呼んでの研修会、という形に収まりがちでした。そこで、連研に関わるスタッフの交流と実際の組連研を実際に見て学ぶ場の必要性を感じ、今年の「連研スタッフ研修会」では、中勢組の連研の事前準備日と当日に参加し各組の連研での工夫や苦勞を分かち合いました。

また今年度は、『話し合い法座の問題提起やまとめの法話を学び合う場がない』との意見から、「僧侶のための12の問い」と題した僧侶連研を開催します。この研修は、連研ノートE12の問いを僧侶も我が事として考え、その上でスタッフとしての立ち位置や法座の進行についての学びを深めることができる場にしたいと考えています。

ご多用の中と思いますが、沢山の方の参加をお待ちしております。（「僧侶のための12の問い」についての詳細は同封のチラシをご覧ください。）

連研部長 山下亮



Contents

委員会紹介（連研部）	P1
こころばなし（法話）	P2
声	P3
特集「PTA会長になっちゃいました」	P4
坊さんの書棚	P6

『罪悪深重』

加藤正人（桑名組善徳寺）

「じいちゃん」

「忙しい時に無理にお願いしてご免して。一周忌は手次のご院さんにお勤めしてもらったから、もういいんだけど、やっぱり命日もお勤めしてもらいたくて。今日は本当にお勤めしてもらって良かった。何にも用意していないけど食べてって。」

60年近く連れ添った連れ合いを亡くされた80代半ばの男性はお勤めの前に言われた詫びをもう一度言いながら、まだ4時前にもかかわらず私の前にビールと寿司桶を置き、自分の席にも置かれるのでした。

連れ合いの実家の住職さんにも阿弥陀経を一巻読んで欲しいとのお願いでした。帰ろうと思っていました。夕飯には早すぎる時間です。それにもかかわらずこの時間帯で食べ物を用意されたことは男性が何か話したいことがあるのではないかと思ひ座り直しました。

「人のいのちって本当に風前の灯ですね。まさか、ばあさんがあんな風に先に往くなんて夢にも思わなかった。」男性はお連れ合いをばあさんと言いながら亡くなった日のことを詳しく話してくれました。夕飯もいつも通りでした。ただ『風邪をひいてしもうたかしら。』とおばあさんがつぶやいたそうです。そのご入浴中に亡くなったのです。



「『一度の心得違いが一生の心得違いとなり、一度の心がけが一生の心がけとなる。なぜなら一度心得違いをしてそのまま命が尽きてしまえば、ついに一生の誤りとなって取り返しがつかなくなるからである。』と蓮如上人は仰られたそうだが、ばあさんが亡くなって思い出した。ばあさんと一緒になって一度も優しい言葉を掛けることなしに来た。世間並みの暮らしをしたいと思ひ、これからの時代は子どもに教育をつけさせないと考え、ばあさんに向かってあれせんといかん、これせんといかんと言いながら、一緒に歩んでくれていることの感謝の言葉を一度もかけずじまい。ばあさんへの最後の言葉もお恥ずかしい限りです。叱りとばして終わりです。今更悔やんだってどうにもなりません。」

「朝夕仏さんに手を合わせて、ばあさんに謝る毎日です。すまんかった。悪かった。許してくれ。ばあさん、お前には本当に感謝しておる。至らんわしにようついてきてくれた。お礼を言う。ありがとう。ありがとう。ありがとうございます。お礼を言いながら、ふと気づくとばあさんに毒づいているのです。ばあさん、お前なぜ俺を残して一足先に往った！」

「ご院さん。もしわしが一足先に死んでいたら、ばあさんが今のわしのように辛い日を送ることになったろう。そうならなくて良かったとは少しも思わんのです。どこまでいっても身勝手な男です。こういう男を罪悪深重というのでしょうか。ねえ、ご院さん。阿弥陀さんはこんな身勝手な男を憐れんで救ってやると言ってお下さるんですね。」

「結婚式」

声

読者の
ページ

去年は、数年来ご無沙汰だった「結婚式」のラッシュの年でした。

六月の土曜日、築地本願寺にて仏前結婚式を挙げた姪。白無垢・カツラは付けず、本人が持っていた振袖でのお式でした。パイプオルガンが流れる静かな本堂、雅楽が演奏される中、厳かに式は進み、和やかな温かなお式でした。その後、レストランでの披露があり、ささやかではありますが、心あたたまる一日でした。

十月、今度は神戸です。今回の新郎新婦は、二人とも寺族で次の世代を継いでゆく、典型的な、お寺同士の結婚式です。新郎は色衣に五条袈裟、新婦は白無垢に綿帽子姿でこれぞ結婚式と思われる式が、神戸別院の本堂で粛々とすすみました。

十月にはもうひとつ、これが一番今風なのか、お互いの家族と一緒に食事をし、本人曰く「家族結婚式、入籍食事会」で終わりだったそうです。その食事会の後にメールで写真と共に「結婚しました。」と報告をいただきました。

今、「婚活」という言葉が流行るほど「結婚」が難しい時代です。2030年には男性の3人に1人、女性の4人に1人が、一度も結婚しない生涯独身者となる時代が来ると予想されています。結婚が全てではありませんが、年頃の子どもの持つ親として、「結婚は良いよ」「できれば子どもに恵まれると良いよ」と胸を張って言いたいのです。新しく家族になるということは、今までの関係とは異なる新しい営みです。色々な偶然が必然に変わり、その過程には多くの人びとが関わっています。その多くの人びととの関係やご縁を忘れずに、これからの人生に幸多かれとエールを送りたいと思います。



「慈眼」

お坊さんの格好をして街を歩いている時。横を走っていった車の運転手さんが、私の事をジーンと凝視していた。前を見ないで、顔を横にして私の事を見ていた。あれで事故が起きたら、私のせいになるのだろうか。

その運転手さんにとって、お坊さんが街を歩いている事はとても珍しいものだったのだろう。その人の視線で、その人の思いが伝わってくる。

ある時、お寺の境内で双子の姉弟と母親3人の案内をした。双子は小学校3年生のまだまだ小さい子ども達だった。子どもに話をする事は難しい。できる限りやさしく話そうとはしても、逆に難しい話になってしまったりする。つまらない話だったかもしれない。けれども、子どもたちは一生懸命に聞いていてくれた。

ただ、お母さんは違った。私が話をしていても、私の方を見る事はなかった。ずっと、子どもたちの事を見つめていた。子どもたちが笑うと、お母さんも笑顔になった。子どもたちがつまらなそうな顔をする時、お母さんは心配そうな顔をしていた。子どもたちはお母さんの視線には気づいていない。ただ、お母さんの視線から、母親の思いが伝わってきた。

子にずっと笑顔でいてほしい。けれども、それがかなわぬ世界に生きています。だから、母の喜びが、母の悲しみが、心にひびきます。



きっかけは駅伝

中高生は陸上部だった私。市民駅伝に幼稚園のお父さんチームを作るから参加して欲しいと園長先生にいわれ、「お葬式できたら、休むかもしれません」と言って関わったのが2年前の冬。

年度末に「役員になるとお母さんは、園の仕事が免除になるよ」と幼稚園PTA役員への勧誘が。もともと平日の園行事にはボランティア参加することもありました。男性役員は好きなペースでやっている状態だったので、「どうせやるなら、パートナーが楽できたほうがいいのか」というくらいの感覚で役員になりました。

役員2年間

PTAで男性役員が関わるのは、運動会や生活発表会の裏方などの仕事や、平日の園行事（お芋パーティ、虫取り遠足など）のお手伝いです。土日は難しいですが、平日は都合がつけやすいので、そちらを中心に。そして男性役員の企画力が試されるのが、夏祭りの夜店ブースづくりと年2回の父親活動日。仏青や少年連盟で培った経験も踏まえつつ、関わりました。



飲み会にて

忘年会や歓送迎会で食事をしているときに、お坊さんの日常について聞かれることもあります。法事の後の会食のときなどにも、そういう話をしたいのですが、お坊さんのまわりは長老方に囲まれることも多く、難しいことも。同世代がお寺について、どう思っているか聞くことができるいい場所にもなっています。

さてこのように役員として過ごしていましたが、この春から会長に……同級生の前会長から頼まれるとなかなか断れないですね。

とはいえ、これも一つのチャンスです。自坊は、地域とのつながりはあまり濃くはないとはいえず。これからのお寺のあり方を考えるうえで、地域とのつながりは無視できません。今年一年がんばるぞ（再来年もまわってきそうな予感）

挨拶

会長になって最初の仕事が入園式での挨拶。まあ、人前で話すのはそれなりに慣れていきますから無難にこなします。園長先生のように、園児を引きつけるような挨拶はできませんが、気にしません。小学校入学式の来賓にも出席しましたが、総代さんや各種団体の〇〇長さんのなかに門徒さんや同級生の親の姿を見たり、声をかけられたり。



吉日表記の変更

会長名義でPTAからのお願いや連絡事項のお手紙を出します。昨年まで、「〇月吉日」と書かれていました。文書発行担当者をお願いして、発行日付に変更しました。

また園行事において雨天の場合、会長に責任がふりかかることを身をもって経験（今のところ、入園式もバス遠足も全部晴ですが）天気のことなんて誰のせいでもないのに、なぜか会長のせいにされます。去年は遠足も運動会も卒園式も雨だったので、前会長に対して「雨男」といっていたのですが、自分がそうなってみると謎のプレッシャーがありますね。

他の園とのやりとり

市立のこども園であることもあり、同じく市立の園同士の連絡協議会や会長会議があります。他の園の会長さんは2年目の方も。仏教にも精通していて、そっちで話が弾んでしまいました。「役員さんでも、仕事の都合などでなかなか協力できない人もいます。それに対して、批判が出ることもある。でも一回でも出てくれるならもうけもの。不参加のほうに目くじらを立てるのではなく、参加してくれることがありがたいと思わなきゃ」というエピソードからは、「ご法話でいけるじゃん」と突っ込んでしまう場面も。個性的であついで人が身近にいることを再発見しました。

会長宅BBQ

1年間活動するのに、最初のコミュニケーションは大事です。昨年も4月に懇親会を予定していたらしいのですが、とある役員からの「土日まで出てきたくない」の一言であっさり却下。

前会長の悲願でもあった4月の懇親BBQは、今年に持ち越され、飛び石連休合間の4月30日に会長宅である自坊にて開催されました。「連休中だし、そんなに参加者いないだろう」という予想に反して、17家族中14家族が参加。大人こどもあわせてまさかの50人超え。

大変でしたが、動ける人がいっぱいいるって素晴らしいですね。ふだん寺族が中心で何人かの門徒さんに手伝ってもらって、という状況とはまたちがったイベントになりました。これだけ動ける若い働き手がいるとお泊まり会も苦ではありません（会場の受け入れの大変さは別問題です。あくまで動ける人材の意味で）



会長になってまだ少しの期間ですが、やってみるとなんとかなるものだと感じます。もちろん周りで支えてくれる家族や一緒に活動してくれる役員メンバーに恵まれているからなのですが。今回の続編がかけるような気持ちになれるような1年になってほしいなと思っている今日この頃です。

『エンジェルフライト』

著者 佐々涼子
発行 集英社文庫

坊さんの書棚

この本は「国際霊柩送還士」の現場を描くものであり、「エアハース・インターナショナル株」（実在）を長年取材続けた著者のノンフィクション作品です。「国際霊柩送還士」と云われてもあまり聞き慣れないと思います。現在日本からの海外渡航者数は年間約1,700万人（法務省）。およそ600人が海外で亡くなっています。（外務省）国際霊柩送還士は海外で亡くなった邦人の遺体や遺骨を現地関係者と協力して遺族の元に届ける職業です。この会社の社長・木村利恵氏の死者との向き合う姿勢は、私達命の現場に立つものとして、とても大切なことを教えてくれます。私達は「いのち」の現場に立ちますし、様々なそういう書物や現場も知っています。同じ葬儀は一つも無く様々な別れ方が有ります。しかし、この本の国際霊柩送還士ほど命に向き合っていたのか疑問もあります。私はこの本を読んで身震いする程の感動を覚えました。できればひとりでも多くの僧侶に読んでほしいと思います。勿論、「死」というものの対応に正解はないと思います。どんな人でも、亡くなった場所も、死因も、家族構成も違います。その度に私は迷い、もがく自分がいます。

国際霊柩送還士の亡き方と遺族を結ぶ姿勢から僧侶は本当に大切な事を学ぶことでしょう。またその学びは自らの現場で必ず生きると思います。この本に出遇えて感謝！！



『姑獲鳥の夏』（うぶめのなつ）

著者 京極夏彦
発行 講談社文庫

この本は京極夏彦の「百鬼夜行シリーズ」といわれる長編小説ものの第一作になります。まずこのシリーズの特徴として辞典並みに本が分厚いということ。書店で手に取る時ついたらめらってしまう程です。今では分冊文庫版が出ていますが私が購読した時はその見た目からもわかる文章量にただただ圧倒されました。

この膨大な文章量の前半では一見ストーリーに関係なさそうなんちく話が長く続きます。しかし後半の謎解きへと移っていくと今まで読んできた関係なさそうな話がつながっていくことに驚きと関心がわき起こってきます。姑獲鳥の夏では心と脳と意識の関係がテーマの一つになっています。見たものが全て必ずしも意識に上ってくるとは限らず意識に上ってこなければ見たという事も自分では認識できないということ、また心の均衡を保つためにあるはずのないものを意識の上に登場させて自分を納得させようとすることもある。「見えるものは見える」という当たり前のことが当たり前でないかもしれない。とても大雑把な説明でネタばれになりそうですが作品の中ではとても長く語られておりミステリー小説のはずが心理学か民俗学の話になっていておもしろかったです。

この作品は漫画や映画も出ていますがまだ読んでいない方にはぜひ文庫版をおすすめします。「百鬼夜行シリーズ」はどの作品も面白いものばかりですので読書好きの方はぜひ読んでみて下さい。

